



Title	白井 孝昌教授 研究業績
Citation	經濟學研究, 48(4)
Issue Date	1999-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/32137
Type	bulletin (other)
File Information	48(4)_Piii-v.pdf



[Instructions for use](#)

白井 孝昌教授 研究業績

1. 「インフレーションと市場構造」, 昭和36年1月, 大阪大学大学院経済学研究科修士論文
2. 「ミード『経済成長の新古典派的理論』書評」, 昭和37年9月, 『金融ジャーナル』同月号掲載
3. 「新古典派的経済成長理論にかんする一研究」『大阪大学経済学』第12巻第2号, 昭和37年12月
4. 「国際貿易の二部門モデル」『大阪大学経済学』第12巻第3・4号, 昭和38年3月
5. 「ランカスターの国際貿易二部門モデルについて」『大阪大学経済学』第13巻第2号, 昭和38年9月
6. 「ボックス・ダイアグラムの拡大ーリプチンスキーの定理, および, 彼が示唆したその他の場合について」『大阪大学経済学』第13巻第3・4号, 昭和39年3月
7. 「代替効果の幾何学的表現一特に財の連関の表現について」『大阪大学経済学』第14巻第2号, 昭和39年9月号
8. “An Alternative Geometrical Representation of Complementarity,” *Osaka Economic Papers*, Vol. XIV, No. 1, July 1965
9. “Improvements in Labor Productivity and Employment,” *Osaka Economic Papers*, Vol. XIV, No.2, December 1965
10. 「マークアップ率の変化と消費者物価」, 熊谷尚夫・渡部経彦共編『日本の物価』日本経済新聞社, 昭和41年3月, 掲載
11. 「ケインズ」, 小林昇編『経済学史』有斐閣, 昭和42年3月, 掲載
12. 「アルフレッド・マーシャルの《自由競争》と《固有市場》」『大阪大学経済学』第17巻第2・3号, 昭和42年12月
13. “Alfred Marshall on Free Competition,” *Osaka Economic Papers*, Vol. XVI, No.2, March 1968; reprinted in *Alfred Marshall: Critical Assessments*, edited by John Cunningham Wood, CroomHelm, London, 1982
14. 「限界効用」『社会科学大事典』鹿島研究所出版会, 昭和43年, 掲載
15. 「限界効用理論」『社会科学大事典』鹿島研究所出版会, 掲載
16. 「第一次世界大戦後におけるケインズの評論活動の解説」, ケインズ『説得評論集』救仁郷繁訳, ぺりかん社, 昭和44年3月, 掲載
17. 「アルフレッド・マーシャルとケンブリッジの経済学教科課程」『春秋』春秋社, 昭和45年7月号
18. “The Theory of the Firm with Non-Marketable Factors in Its Production Process,” (mimeograph), October 1970, 理論・計量経済学会1970年度大会(於広島大学)において報告
19. 翻訳: リチャード・T・ギル『ミクロ経済学入門』上・下, 東洋経済新報社, 昭和47年4月
20. “Monopolistic Competition and General Equilibrium Theory: A Particular Equilibrium Version of the Monopolistic Firm with its Subjective Demand Curve,” *Hokudai Economic Papers*, Vol. III, 1972-1973
21. “On Price Rigidities in Oligopolistic Industries,” *Hokudai Economic Papers*, Vol. IV, 1974-1975
22. 翻訳: ミルトン・フリードマン『資本主義と自由』熊谷尚夫・西山千明と共訳, マグロウヒル好学社, 昭和50年11月
23. 「価格理論」大谷龍造・斉藤謹造共編『現代経済学研究案内』有斐閣, 昭和51年6月
24. *Letters on the Equilibrium Theory of Money*, 1977, (privately printed)
25. 「ケインズ『貨幣改革論』」則武保夫・浅野栄一・早坂忠・白井孝昌・美濃口武雄共著『ケインズ一著作と思想』有斐閣, 1978年, 掲載
26. 「ケインズ『戦費調達論』」同上書, 掲載
27. “History of Hokkaido University,” *Hokkaido University Catalogue*, 1981-1982

28. 「ケインズ理解のために—『自由放任の終焉』を読む」『経済セミナー』No.316, 1981年5月号
29. 翻訳: マーチン・ブロンヘンブレナー「ハイフン付きアメリカ人—その経済的側面」『ハイフン付きアメリカニズム』木鐸社, 1981年, 第1部第3章として所収
30. 「経済部会の報告」同上書, 第2部第3章として所収
31. 「もうひとつのケインズ像」『経済セミナー』No.329, 1982年6月号
32. 翻訳: ウィリアム・N・バーカー「アメリカの資本主義」小川晃一・石垣博美共編『アメリカ人のヨーロッパ像』木鐸社, 1982年, に第1部第3章として所収
33. 翻訳: 加藤周一「アメリカ・ヨーロッパ, そして日本」同上書, に第1部第4章として所収
34. 「ケインズとマーシャル—イギリス・ケンブリッジ学派の伝統」別冊『経済セミナー』ケインズ生誕100年記念号, 1983年4月
35. 「ケインズ『一般理論』私注①, 《同業の経済学者たち》について」『経済セミナー』No.339, 1983年4月号
36. 「ケインズ『一般理論』私注②, ③——「『貨幣論』から『一般理論』へ」(1), (2)『経済セミナー』No.340, 341, 1983年5月号, 6月号
37. “History of Hokkaido University, 2nd version,” *Hokkaido University Catalogue 1983-1984*
38. 「ケインズ『一般理論』私注④, 『貨幣論』から『一般理論』へ(3)『経済セミナー』No.342, 1983年7月号
39. 「ケインズ『一般理論』私注⑤, 『一般理論』の全体構成」『経済セミナー』No.343, 1983年8月号
40. 「ケインズ『一般理論』私注⑥, <一般理論>の意味」『経済セミナー』No.344, 1983年9月号
41. 「ケインズ『一般理論』私注⑦, ケインズ, マルサス, そしてリカード」『経済セミナー』No.345, 1983年10月号
42. 「ケインズ『一般理論』私注⑧, リカード, マーシャル, そしてピグー」『経済セミナー』No.346, 1983年11月号
43. 「ケインズ『一般理論』私注⑨, ピグーの雇用理論」『経済セミナー』No.347, 1983年12月号
44. 「ケインズ『一般理論』私注⑩, 古典派雇用理論の二公準」『経済セミナー』No.348, 1984年1月号
45. 「ケインズ『一般理論』私注⑪, ⑫——「ピグーの『失業の理論』」(1), (2)『経済セミナー』No.349, 350, 1984年2月号, 3月号
46. 「賃金基金説の系譜について」(1), (2)『経済学研究』(北海道大学)第34巻第1号, 第2号 1984年6月, 9月
47. 「マーシャル, Alfred Marshall, 1842-1924」『大百科事典』平凡社, 1984年11月
48. 「『経済学原理』(1890, 第8版 1920)」『大百科事典』平凡社, 1984年11月
49. 「賃金基金説の系譜について」(3)『経済学研究』(北海道大学)第34巻第3号, 1984年12月
50. 「待兼山の頃」『経済学会報』(関西大学経済学会)第5号, 熊谷尚夫先生古希祝賀特集, 1984年
51. 「経済的, 社会的, および法的交換の諸概念について(1)—社会的交換と経済分析の手法」『経済学研究』(北海道大学)第34巻第4号, 1985年3月
52. “History of Hokkaido University, 3rd version,” *Hokkaido University Catalogue, 1985-1986*
53. 「賃金基金説の系譜について」(4), (5), (6)『経済学研究』(北海道大学)第35巻第1号, 第2号, 1985年6月, 9月, 1986年6月
54. 「ケインズ」小林昇・杉原四郎共編『新版経済学史』有斐閣, 1986年8月, 第15章として所収
55. 「賃金基金説の系譜について」(7), (8), (9), (10)『経済学研究』(北海道大学)第36巻第2号, 第3号, 第4号, 第37巻第1号, 1986年9月, 12月, 1987年3月, 6月
56. “History of Hokkaido University, 4th version,” *Hokkaido University Catalogue, 1987-1988*
57. 「賃金基金説の系譜について」(11), (12), (13)『経済学研究』(北海道大学)第37巻第2号, 第3号, 第4号, 1987

- 年9月, 12月, 1988年3月
58. 「サー・ジョン・ヒックスと《古典派経済学》」『大阪府立大学経済研究』今川正教授退職記念号, 第33巻第2号, 昭和63年3月
 59. 「賃金基金説の系譜について」(14), (15), (16), (17), (18)『経済学研究』(北海道大学) 第38巻第1号, 第2号, 第3号, 第4号, 第39巻第1号, 1988年6月, 9月, 12月, 1989年3月, 6月
 60. “History of Hokkaido University, 5th version,” *Hokkaido University Catalogue, 1989-1990*.
 61. 「賃金基金説の系譜について」(19), (20), (21)『経済学研究』(北海道大学) 第39巻第2号, 第3号, 第4号, 1989年9月, 12月, 1990年3月
 62. 「トマス・モア『ユートピア』考—現代経済学の思想的源流」『松山大学論集』伊達功教授記念号, 第2巻第5号, 平成2年12月
 63. 「賃金基金説の系譜について」(22)『経済学研究』(北海道大学) 第41巻第1号, 1991年6月
 64. “History of Hokkaido University, 6th version,” *Hokkaido University Catalogue, 1991-1992*
 65. 「賃金基金説の系譜について」(23), (24), (25), (26), (27)『経済学研究』(北海道大学) 第41巻第2号, 第3号, 第4巻第1号, 第3号, 第4号, 1991年10月, 12月, 1992年6月, 12月, 1993年3月
 66. 「ケインズの描いたA. マーシャル像—マーシャル夫妻共著『勤労の経済学』(第3版, 1885年)の存在の意義」稲村勲編著『経済学の射程・歴史的接近』ミネルヴァ書房, 1993年4月, に第7章として所収
 67. 「賃金基金説の系譜について」(28)『経済学研究』(北海道大学) 第43巻第1号, 1993年6月
 68. “History of Hokkaido University, 7th version,” *Hokkaido University Catalogue, 1993-1994*
 69. 「賃金基金説の系譜について」(29)『経済学研究』(北海道大学) 第43巻第2号, 1993年9月
 70. “History of Hokkaido University, 8th version,” *Hokkaido University Catalogue, 1995-1996*
 71. 「賃金基金説の系譜について」(30)『経済学研究』(北海道大学) 第45巻第4号, 1996年3月